



(様式1)

法人名	国立大学法人東京外国語大学
-----	---------------

附 置 研 究 所 等 概 要

平成19年4月1日現在

研究所名	アジア・アフリカ言語文化研究所	全 共	○
設置目的	アジア・アフリカの言語文化に関する総合的研究を行い、アジア・アフリカ世界に関する新たな認識枠組み提供のための基盤形成に寄与する事を目的とし、その目標を達成するため、次に掲げる重点的活動目標を設定する。 (1) 臨地研究（フィールドサイエンス）に基づく国際的研究拠点として共同研究プロジェクトを推進すること。 (2) アジア・アフリカ諸地域の言語・文化等に関する研究資源拠点及び研究成果の発信拠点としての活動を進めること。 (3) 研究活動及び研修・出版・広報等の活動を通じての後継者養成に関すること。		
沿革	1961年 日本学術会議がアジア・アフリカ諸国についての研究を進めるための共同利用研究所を設立するよう政府に勧告 1964年 アジア・アフリカ言語文化研究所が東京外国語大学に附置 わが国最初の人文科学・社会科学系共同利用研究所 1983年 海外学術調査(当時、国際学術研究)総括班事務局設置 1991年 研究体制の抜本的見直しを行い、従来の小部門制(及び1客員部門)から4大部門制(及び1客員部門)をとる 1992年 東京外国語大学に大学院地域文化研究科博士後期課程が設置されたのに伴い、大学院地域文化研究科にAA研コース会議を設置 1995年 文部省から「卓越した研究拠点(COE)」に指定される 1997年 附属情報資源利用研究センターを設置 2002年 旧西ヶ原キャンパスから現在の府中キャンパスに移転 2004年 東京外国語大学が国立大学法人になる 2005年 複数の研究ユニットからなるプロジェクト研究部を設置 フィールドサイエンス研究企画センター設置 中東研究日本センターをレバノン共和国のバイルートに開設		
所在地	東京都府中市朝日町3-11-1		
所長名	大塚 和夫 (おおつか かずお)		
組織	研究部門数	1 プロジェクト研究部 (5研究ユニット)	
	ユニット名	1) 情報資源戦略研究ユニット	7)
		2) コーパス研究ユニット	8)
		3) 文化動態研究ユニット	
		4) 政治文化研究ユニット	
		5) 言語動態研究ユニット	
		6)	
研究施設数	3 施設		
施設名等	施設名	施設長等名(ふりがな)	
	情報資源利用研究センター	栗原 浩英(くりはらひろひで)	
	フィールドサイエンス研究企画センター	黒木 英充(くろきひでみつ)	
	中東研究日本センター(在レバノン)	黒木 英充(くろきひでみつ)	

	教員数	教員 39名 (教授18名、准教授18名、講師0名、助教3名、助手0名)	
予 算	763 百万円 (平成17年度決算額) (人件費 525百万円、物件費 238百万円)		
研究内容	<p>[長期的な基本目標]</p> <p>1) 臨地研究 (フィールドサイエンス) を核とした国際的研究拠点として国際的水準の研究を先導するにふさわしい研究領域を設定し、国内外の共同研究プロジェクトを推進する。</p> <p>2) アジア・アフリカ諸地域の言語・文化等に関する研究資料・情報を研究資源として利用可能な形に編纂し、それを国際的に共有するための研究資源拠点としての活動を進める。</p> <p>3) 国内外の後継研究者の養成に努めるため、研究所の創設以来の歴史を持つ言語研修・研究技術研修・出版・広報活動の、いっそうの充実を図る。</p> <p>これらの基本目標を遂行するために、次の3つの戦略的な研究軸に基づいて、動的な研究活動を推進する。</p> <p>[戦略的な研究軸]</p> <p>A) 言語態に関する基礎研究 B) 地域生成に関する研究 C) 文化の伝承と形成に関する基礎研究</p> <p>3つの研究軸を具体化させた中期目標・中期計画に基づいて、所員が活動の単位である「研究ユニット」に所属し、所内での共同研究を実施する。</p> <p>[情報資源戦略研究ユニット] 言語文化情報に関わる新たな情報処理システムの構築ならびに言語文化情報の提供、共同利用・公開のための手法の開発を行う。</p> <p>[ユーパス研究ユニット] アジア・アフリカの言語文化情報の分析・処理システムの構築およびそれに基づく言語文化の理論化を行う。</p> <p>[文化動態研究ユニット] フィールドワークに基づいた人間文化の現実態の実証的研究、人類史的視野の中で文化の理論的探究を行う。</p> <p>[政治文化研究ユニット] 通時的視点から国家と地域における政治をその背景をなす文化の分析を通じて解明する。</p> <p>[言語動態研究ユニット] フィールドワークに基づく実証的研究を基盤とした言語記述の方法論に関する根幹的な研究を行う。</p> <p>[情報資源利用研究センター] 言語文化情報に関わる新たな情報処理システムの構築、言語文化情報の提供、共同利用・公開のための手法の開発を行う。</p> <p>[フィールドサイエンス研究企画センター] フィールドサイエンスに関わる研究者ネットワークとノリッジベースの構築、フィールドサイエンス技法の開発と研修の遂行、現代のアジア・アフリカの諸問題に複眼的な視座を提供するために、地域生成過程のダイナミズムを研究を行う。</p>		
備 考			